ラベルから軟包装まで

生活産業分野でIJ技術を活用

ミヤコシ

㈱ミヤコシ（本社／千葉県習志野市、宮腰亨社長）は今年9月24日から27日までの4日間、ベルギーのブリュッセルで開催されるラベル関連の国際展示会「Labelexpo Europe（ラベルエキスポヨーロッパ）2019」に出展する（ホール8－8831）。今回、同社・執行役員営業本部副本部長兼国際戦略事業部長の天野剛氏に、ラベルエキスポの出展概要、そしてミヤコシが提案するインクジェットソリューションなどについて聞いた。

今回のラベルエキスポでは、間欠オフセットラベル印刷機「MLP13C」とラベル用LED－UVインクジェットプリンター「MJP13LXV」の2台のラベル印刷機を出品する。

これまで当社は、ラベルエキスポに積極的に出展し、オフセット方式とインクジェット方式のラベル印刷機を紹介してきた。

オフセット印刷方式によるラベル印刷機については、機能性などが評価され、欧州の販売拠点である「ミヤコシヨーロッパ」を通じて導入が進んでいる。

今回の出品機である間欠オフセットラベル印刷機「MLP13C」では、様々な加工ユニットをインライン装備するほか、従来の紙だけでなく、フィルム基材にも印刷が可能な仕様として紹介していく。

天野 氏

欧州市場で本格的に販売展開

インクジェット方式によるデジタルラベル印刷については、これまでもラベルエキスポで紹介してきたが、どちらかといえば市場調査を兼ねた出品であった。しかし、今回のラベルエキスポの出展を契機にミヤコシブランドのインクジェットラベル印刷機として「ミヤコシヨーロッパ」が正式に欧州市場に対し、販売・サポートを開始することをアピールしていく。

「MJP13LXV」は、前回も出品している機種で、窒素パージLED－UVを搭載し、低臭気化を実現する解像度1200×1200dpiのラベル印刷用のインクジェットプリンターである。基本スペックは、前回と同様だが、インクジェットヘッドやインクなどを改良したモデルとなっている。また、前回は、このインクジェットプリンターに後加工システム「MJL13A」をインライン接続したかたちで提案を行ったが、後加工をすでに設置しているユーザーも多いことから、今回はロールtoロールのシンプルな仕様で訴求していく。

水性顔料インクによる軟包装IJ印刷にも挑戦

紙メディアが減少傾向にある中、シール・ラベルをはじめ、紙器・フィルムパッケージ印刷は、今後も成長が続くと予測されている。次回の「drupa2020」では、パッケージソリューションについて、多くの出展社から提案が行われるはず。当社も昨年開催されたIGAS2018では、軟包装印刷向けフルカラーの水性インクジェットプリンター「MJP30AXF」を技術展示として紹介した。

軟包装印刷分野において当社は、すでに富士フイルムと協力して、窒素パージ技術で低臭気化を図った軟包装用のUVインクジェットデジタル印刷機を開発し、すでに導入実績もある。しかし、海外展開を考えたときにUVインク方式では、ワールドワイドでの安全基準に必ずしも合致できないこともある。その課題を解決する手法として当社は、水性顔料インクを採用した軟包装用インクジェット印刷機の開発に着手した。

技術開発を継続してユーザーニーズに対応

IGAS2018では、水性顔料インクを使用した軟包装印刷向けのインクジェットプリンターとして、品質や生産スピードに対し、評価を得ることができたと思う。しかし、グラビア印刷機の市場に参入するには、多くの課題が山積している。

現時点では、30インチ幅の仕様だが、それ以上の印刷幅の仕様や多種多様なメディアへの対応が求められるはず。もちろん、これらのニーズすべてを一気に解決することはできないが、しかし、その課題に真摯に向き合い、一歩ずつクリアしていくことが重要であり、それこそがミヤコシに課せられた使命であると考えている。

今後は、新たな市場としてダンボール印刷分野でインクジェット技術を応用した製品開発なども検討していきたい。現時点では、広幅メディアの対応などの課題があるが、印刷や搬送、加工などに技術的に問題はないと考えている。

MJP13LXV

水性顔料インクで軟包装印刷にも挑戦

高速シングルパス印刷実現

機械仕様のカスタマイズに強み

志機

ラベル印刷機メーカーの㈱志機（本社／大阪市中央区玉造）が開発・製造するインクジェットデジタル印刷機「PJシリーズ」の導入が国内外で進んでいる。

「PJシリーズ」は、同社オリジナルのUVインキを最新のLED－UV乾燥装置で硬化させるフルカラーインクジェット印刷機。同社がインクジェットデジタル印刷機の開発に着手したのはおよそ9年前。解像度600dpi×600dpiで最大50メートル／分の高速シングルパス印刷を可能としているロールタイプの「PJシリーズ」は、シールラベル業界に留まらず、トレーサビリティを前提とした可変データ印字のニーズが高まる様々な業種への導入が進んでおり、その活躍の場を海外にも広げている。現在では印字幅10～650ミリモデルの出荷実績があり、今後も広幅化するニーズに対応していく考えだ。

ロール仕様の PJ シリーズ

インクジェットデジタル印刷機「PJシリーズ」

一方、枚葉タイプもラインアップ。これはシルクスクリーンやパッケージ分野などに向けたソリューションとして導入が進んでいる。

枚葉タイプは、スクリーン印刷の置き換えを想定して開発されたもの。PETやポリカーボネートなど、厚みや材質の問題でロールにできないメディアにも対応できる。その中でも、搬送部分にバキュームコンベアを採用した生産性重視モデルや、搬送部分にバキュームテーブルを採用した精度重視モデルをラインアップするなど、ユーザーニーズに応じた仕様が用意されているのも特徴のひとつだ。

最大印刷長は2700ミリ長（データ長）で、最大メディア厚は5ミリ、C・M・Y・K・白・ニスの6色に対応。同社では「カスタムメイドに対応できることが当社の強み」とし、搬送の機構や加工オプションなども含めた機械仕様のカスタマイズに自信を示している。

枚葉タイプにおいても最大の特徴は、解像度600dpi×600dpiでシングルパス方式による高い生産性だが、一方で2パス、3パスモードによる厚盛印刷も可能で、最近ではインクの厚盛りによる点字へのアプローチに挑戦するユーザーが出始めているほか、ナンバリング＋検査工程といったシステムでの納入も増えつつあるという。

さらに同社は現在、1システムで異なるインクジェットヘッドを混載できるように改良を進めており、今後は用途に応じて解像度の異なるインクジェットヘッドでシステム構築することも可能になる。

同社では、システムのみの販売も行っており、既存の印刷機や搬送機などへの搭載も可能である。

【問い合わせ】志機 大阪工場 営業部 電話06－6793－3111

なぁ・・イヌ・・、
聞いてくれへん・・・。
こないだ私がデザインして
印刷手配して納めた
印刷物があってんけどな、
それが、すぐに色褪せて困るって
また、お客さんに怒られてん・・。
使ったインキは耐光インキや
ないねんからしゃーないやんなぁ。
コストかけずに色褪せぇへん、
印刷物の用意なんかでけへんって。
そんなん、無理やんなぁ。
色褪せしたくなかったら、
高めのインキを
使わなあかんねんでって、
言うてんねんけどなぁ・・。
はぁぁぁ・・・。
なんか、都合良い方法って
ないんかなぁ・・？
なぁ・・イヌよ・・・。
ココに注目！
プリントビズはフルカラーも特色もぜんぶ耐光インキ！
いつものコストで色褪せにくい印刷物をおてもとに！
曝光試験（※）40時間を楽々クリアで色褪せに強い
※曝光40時間とは、おだやかな太陽光下でおよそ120日間曝（さら）される紫外線量に匹敵
環境推進工場 t139
JAPAN COLOR 標準印刷認証 マッチング認証 プルーフ運用認証 デジタル印刷認証
JPS
Waterless Printing. Naturally. H14
VEGETABLE OIL INK
【ずっと安心。ぐっと満足。】
PrintBiz プリントビズ
Powered by 北東工業株式会社
プリントビズ 検索 0120-132-768

美術印刷紙面艶出
A倍判ラミネート（窓貼りも可）
プレスコート、コーティング加工
其の他光沢化工全般
三博工業株式会社
〒581-0043 大阪府八尾市空港1丁目192番地
TEL.072-991-0708　FAX.072-991-0312
e-mail : info@mihaku.co.jp

ミヤコシグループは “すべてはお客様のために” 最高の製品とサービスを提供するために邁進します
Miyakoshi PRINTING MACHINERY.CO.,LTD.
MJP13LXV
ラベル用 LED-UV インクジェットプリンター

ラベル市場における本生産機として十分な生産能力を発揮します
MJP20AXW
次世代水性フルカラーインクジェットプリンター

ＤＰＳ・商印の全領域をデジタル化すべく開発された最新のハイエンドモデル
お客様の喜び・満足を創造する
株式会社ミヤコシ
〒275-0016　千葉県習志野市津田沼 1-13-5　TEL 047-493-3854　FAX 047-493-3071　https://www.miyakoshi.co.jp/